

市民参加推進フォーラム自主研究会：今後のフォーラムの役割と機能を考える

市民参加推進フォーラム委員の有志により、今期のフォーラムの活動を振り返り、次期フォーラムの役割や機能について議論する機会を持った。

議論の詳細については、各回の記録を参照されたいが、そのなかでいくつか特徴的な提案があったので、来期のフォーラムの活動の参考として、ご報告させていただきたい。

●具体的な施策、課題、論点について「議論する機会」を

もっとも広範にみられた意見は、市政や市民、市民活動に関連して、具体的な議論が委員のあいだでなされることが必要であり、その機会を確保したいということであった。

前年度、同様にフォーラム委員のうち有志によって自発的に行われた市民参加推進条例の自主勉強会についての評価が高く、こうした機会を継続的にもち、多様なテーマについて議論するようにしてはどうかという提案である。

形式については

- ・委員有志による自主研究会
- ・委員有志に前任委員有志も含めた、より広く参加が可能な自主研究会
- ・議員も参加してもらえる「政策ラウンドテーブル」のようなもの。
- ・定期的、継続的な開催。月1回程度？

などの意見がでた（これらの要素をすべて満たすべきという意味ではない）

また、内容についても、多様なアイデアや提案があった。

- ・参加する有志でテーマを決め、具体的な政策課題を議論する
- ・（昨年度の勉強会で時代祭や子育てサポート制度についてやったような）現在京都で実際に行われている価値ある市民活動の掘り起こし
- ・各局の市民参加推進委員に来てもらい、局の取り組みを聞く
- ・「待ち」の姿勢でなく、具体的積極的な課題を見つけ「攻め」の議論を
- ・（出前トークのような）新しい仕組みについては、こちらから聞くだけでなく、担当課からの相談という需要もあるのでは
- ・施策などについて（市と市民、NPO などから）賛否が別れる意見を聴取する
- ・市営駐車場のプリペイドカード、100 円循環バスなどの個別の具体課題なども
- ・市がこれまでもつ委託や各種団体参加の制度などの現状や課題

などの意見があった。

形式や内容については自主研究会で一致した一つの提案となったということではないが、「有志による、京都市政と市民参加にかかわる具体的な課題・施策・取り組みについて、自由に議論する機会を継続的につくること」は、参加者の一致した意見であり、提案としたい。

●電子会議室について

また、現在試行されている電子会議室についても、意見が交わされた。

現状、見えない層を盛り上げていく難しさについても指摘があったが、同時に、「担当者は異動で変わってしまうが、そのテーマについての変わらない窓口になりえる」「パブリックコメント以前の気軽な（実現を保障しない）意見徴収の場として使えるのでは」「具体的な課題をあつかって市民の生の声を聞く」「市政への参加と市民どうしの情報交換ができる場として」といった可能性と今後の活性化について期待する意見があった。

●「つないでいく」フォーラム（１）ー市民・行政・フォーラム

フォーラムが目指すべき機能や役割としては、多くの委員から、「ツナギ役」ということばで表現されていた。

フォーラムの役割としてあがったものだけではないが、市政をとりまく、行政・市民・多様な市民活動主体をめぐって、多様な「ツナギ」についての要望があった。たとえば、（市民の提案が生きるように）縦割りになりがちな行政内部の組織と組織とのツナギ役、（単にPR役ということではなく、課題の指摘や提起を含めて）行政と市民とのツナギ役、市民と市民とのツナギ役などがあげられた。市民と市民との間のツナギ役、という意味では、本質的に対立するものではないはずのテーマ型の市民活動と地縁型の市民活動が分離しており、市政への市民参加にとっても課題のある状況が話題となり、両者をつないでいく必要性が指摘された。また、これまで「地域」に入ってこなかった市民層（たとえば若いお母さん層）が、地域やまちづくり、市政にかかわっていけるようなツナギ役あるいは窓口などが必要との意見が多くみられた。

こうした「ツナギ役」としての機能を果たすことは容易ではなく、仕組みの面でも具体化しにくいところもある。もちろん、フォーラムだけがこうした役割を持つものではないが、こうした「ツナギ役」が多様に生まれることを期待し、フォーラムも「市民参加推進」という面で、その一助を果たすことをめざしていくべきとされた。

●「つないでいく」フォーラム（２）ー「つぎ」への継承

また、１期から２期へ「つないでいく」ことについても多くの意見があった。

フォーラム自身も、市民参加推進懇話会の提言からつながった「二代目」「起承転結の承」という位置づけができる。しかし、一方で、そうした前身の議論や意見、委員がとりくんできた「想い」などが十分継承されず、「ゼロからやり直し」となっている面もある。

１期から２期の転機にあたっては、こうした研究会や提言をいかし、入れ替わりになる委員からの「ツナギ」を土台として、フォーラムに蓄積されていくようなつながりのかたちが期待された。